



普通高等教育“十一五”国家级规划教材

新大学日语

阅读与写作 ④

(修订版)

总主编 陈俊森

主 编 吴 侃 村木新次郎



高等教育出版社
Higher Education Press



普通高等教育“十一五”国家级规划教材

新大学日语

阅读与写作 ④

(修订版)

Xin Daxue Riyu Yuedu yu Xiezuo 4 (Xiudingban)

总主编 陈俊森

主 编 吴 侃 村木新次郎

编 者 (中) 吴 侃 金玺罡 韩建美

(日) 三木麻由美 田口圣子

村木新次郎 森下训子



高等教育出版社 · 北京
HIGHER EDUCATION PRESS BEIJING

图书在版编目(CIP)数据

新大学日语阅读与写作. 4 / 陈俊森主编; 吴侃,
(日) 村木新次郎分册主编. —2 版(修订本). —北京:
高等教育出版社, 2010. 9

ISBN 978 - 7 - 04 - 030624 - 8

I. ①新… II. ①陈… ②吴… ③村… III. ①日语 -
阅读教学 - 高等学校 - 教材 ②日语 - 写作 - 高等学校 - 教
材 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 174577 号

策划编辑 李 炎
版式设计 刘 艳

责任编辑 赵亚可
责任校对 张博学

封面设计 王凌波
责任印制 韩 刚

出版发行 高等教育出版社
社 址 北京市西城区德外大街 4 号
邮政编码 100120

经 销 蓝色畅想图书发行有限公司
印 刷 高等教育出版社印刷厂

开 本 787 × 1092 1/16
印 张 19.25
字 数 437 000

购书热线 010 - 58581118
咨询电话 400 - 810 - 0598
网 址 <http://www.hep.edu.cn>
<http://www.hep.com.cn>
网上订购 <http://www.landaco.com>
<http://www.landaco.com.cn>
畅想教育 <http://www.widedu.com>

版 次 2002 年 6 月第 1 版
2010 年 9 月第 2 版
印 次 2010 年 9 月第 1 次印刷
定 价 40.00 元(含光盘)

本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题, 请到所购图书销售部门联系调换。

版权所有 侵权必究

物料号 30624 - 00

修订版前言

一、修订背景

《新大学日语》系列教材是新世纪开始时，依据《大学日语教学大纲》编写的教材，自出版以来，受到了全国广大高校日语教师和学生的喜爱，对大学日语的教学起到了很好的促进作用。

2008年9月，教育部高等学校大学外语教学指导委员会日语组重新修订了教学大纲，制定出了适合高等教育各类学生的《大学日语课程教学要求》。随着中日交流的深入和扩大，社会对日语人才的需求发生了很大的变化，除了人数的扩大以外，在运用能力方面对日语使用者提出了很高的要求。为了适应新的社会需求，《大学日语课程教学要求》将教学目标定位为“培养学生不同层次的日语综合运用能力”，同时整合了传统的第一外语教学和第二外语教学，实行分级指导。教学安排共分为6个级别，其中1~4级各60学时，5级和6级各120学时。

依据《大学日语课程教学要求》，全国大学日语考试设计组制定了新的《大学日语四、六级考试大纲》，改革了以往的大学日语四级考试，新增设了大学日语六级考试，并于2009年6月开始在全国实施。

为了贯彻实施《大学日语课程教学要求》，并且与新的大学日语六级考试对应，我们决定对《新大学日语》系列教材进行修订。

二、修订原则

1. 贯彻执行《大学日语课程教学要求》中5级和6级的各项要求。
2. 适当兼顾新的“大学日语六级考试”。
3. 以提高学生应用能力为主。
4. 吸收最新的日语教育理论和方法。

三、修订内容

阅读与写作

1. 练习的修订。

适当减少语言知识的练习，增加运用能力的练习。根据课程教学要求，增加了日译汉的练习，加强了阅读理解训练。阅读理解重在训练以下策略：理解主旨大意、判断作者的观点、态度、获取重要信息和特定细节、理解句子中省略或隐含的成分、理解句子之间的关系、理解指示词所指代的内容、理解文章中的关键词和关键句、理解复杂结构的句子意义。

2. 新增写作训练。

新的课程教学要求提高了对写作的要求,例如,5级的要求是:“能完成一般性写作任务,能写常见的应用文,能描述各种图表,能就一般性话题在半小时内写出250字的短文,……”6级的要求是:“能就一般性的主题表达自己的观点,能撰写通知、报告、信函和所学专业论文的日文摘要,能在半小时内写出350字的短文,……”将写作训练单独作为一个项目设立,就是为了充分贯彻这个新的要求。写作训练分为两个部分,一个是基础作文,主要训练写作的基本方法;另外一个实践作文,主要是应用型的写作训练。

3. 例句的调整。

对例句做了一定程度的调整,加强了句子的语篇功能,提高了应用价值。

听力与会话

4. 对第一册各课part 1的第一题进行调整。

将语音训练的内容改为跟读方式的准备练习,内容都是与本课任务有关的单句或短小会话,这个练习可以帮助学习者热身。

5. 对第一册各课part 4和第二册各课part 4的第一题进行调整。

提出一个具体任务要求,让学生进行角色扮演,通过会话完成一个具体的任务,让会话成为一个有意义的言语行为。并且通过听范例,使之和会话的内容相关联,将听和说有机地结合在一起。有的课使用了辩论和演讲的形式,多种方式培养学生的实践能力。

除了以上修订内容以外,各册都对模拟试题进行了调整,使之更加符合学习目标,更加靠近大学日语六级考试的要求。另外,各册都在每课前增加了“学习目标”,使得教师和学习者能够一目了然地知道本课的任务要求。

此次修订是在2002年版的基础上进行的,我们对第一版的作者及相关人员表示衷心的感谢。

本系列教材被列为教育部“普通高等教育‘十一五’国家级规划教材”。

《新大学日语》系列教材修订委员会
2009年8月

本册使用说明

《新大学日语阅读与写作》（修订版）第四册由10课构成，供40～44学时使用。
每课内容构成如下：

読みながら

针对课文的中心内容或相关事物的导入式提问，或者指导学生在阅读课文时要特别注重之处。目的在于让学生加深对课文的理解和掌握该课文表达上的特点、重点。讲解课文时，可就这些问题展开讨论。

本文

本部分为1500字之内的题材各异的文章。除随笔等一般叙述文章外，本册特别选用了几篇具有较强实用性的文章，如：机器使用说明书、工作规划书、合同书等等。此外，在内容上，为使学习者扩大知识面和加深对日本社会、文化的理解而选用了一些相关的文章。

単語1～4

本部分依次为“本文”、“言葉の使い方”、“表現と文型”、“練習問題”中的生词，按照出现顺序排列。每个单词，除词缀外均标注了音调，所有单词均注明词性，并用日文释义。

注釈

本部分为课文和阅读文中的语言难点和专有名词的简单注释。

言葉の使い方

本部分为从课文中选出的重点或难点词，每个词给出若干典型例句，供学生学习掌握。例句译文参见教学参考书。

表現と文型

本部分为从课文中选出的语言表达重点，分别用日文加以简单的解释，并给出若干例句。例句译文参见教学参考书。

練習

每课的练习均包括课文提问、多项选择、中译日、作文等四种题型。此外，根据每课的特点设计了针对汉字读音、词义、单词结构、外来语等内容的练习。内容包括本课语言点的练习、前几课语言点的练习和能力测试练习。

作文

每课均编写了两部分写作，“作文1”是某一类表达的练习，多数通过句型作练

习。“作文2”是具体写一篇文章。各课均对写作的具体做法和内容给出了提示。本教材此次修订特别加强了写作的练习，主要针对目前大学日语学习者作文方面较弱的问题。

読解

本部分包括两篇500～800字的短文，供快速阅读练习使用。每篇短文后各有5道练习题。“読解1”的练习为针对语言、表达、内容的综合练习，“読解2”的练习主要为针对文章内容的提问。

目次

第 1 課 1

- 本文 フルタイム化する人間関係——はやる携帯メールと若者文化 2
言葉の使い方 6
表現と文型 8
練習 10
作文1 分類表現 分類と構成 15
作文2 携帯メールがもたらした人間同士の付き合いの変化 17
読解1 携帯のない世界、理想と現実 19
読解2 携帯メールの落とし穴 21
コラム 携帯電話用語 23
今週の一句 一寸の虫にも五分の魂 23

第 2 課 24

- 本文 世界遺産・屋久島 25
言葉の使い方 29
表現と文型 31
練習 33
作文1 判断表現 (2) 婉曲話法 36
作文2 私の知っている世界遺産 37
読解1 廬山 39
読解2 世界遺産条約とは 文化遺産と自然遺産 41
コラム 文化遺産の登録基準 自然遺産の登録基準 42
今週の一句 ごろ寝をさせて神は馬鹿を養う 43

第 3 課 44

- 本文 機械説明書 45
言葉の使い方 50

表現と文型	52
練習	54
作文1 要望の表現	57
作文2 電子書籍の将来	58
読解1 空調機の操作方法	60
読解2 油圧ブレーカーの配管	62
コラム 若者言葉	63
今週の一句 貧乏人とは少ししか持たない者のことではなく、たくさんほしがる者のことである	64

第4課65

本文 加工食品の問題点	66
言葉の使い方	71
表現と文型	74
練習	77
作文1 主張と勧め	80
作文2 変化に富んだ私たちの食生活	81
読解1 オーガニックって知ってる?	83
読解2 現代人の栄養素の摂取を妨げる理由	85
コラム 球技	87
今週の一句 青春は単なる人生の花盛りではなく、来るべき結実の秋への準備の季節である	87

第5課88

本文 カタカナと元気の問題	89
言葉の使い方	93
表現と文型	96
練習	99
作文1 限定の表現	104
作文2 就職活動のための自己PR	105

読解1 漢 字	107
読解2 日本語の文字の体系	109
コラム 擬声語・擬態語の意味と用法	110
今週の一句 人生とは出会いであり、その招待は二度と繰り返されることはない	111

第6課 112

本 文 企画書	113
言葉の使い方	120
表現と文型	123
練 習	125
作文1 まとめの表現	129
作文2 大学生のよくする遊び	130
読解1 ○○株式会社10年史発刊について	132
読解2 新製品宣伝プレゼントの企画書	135
コラム 「格助詞」の「格」ってなに？	136
今週の一句 人間は一本の葦にすぎない。自然のうちで最も弱いものである。だがそれは考える葦である	137

第7課 138

本 文 工場建設技術援助協定書	139
言葉の使い方	148
表現と文型	150
練 習	154
作文1 話し言葉VS書き言葉	157
作文2 売買契約書	158
読解1 ソフトウェア売買契約書	160
読解2 契約自由の原則	163
コラム 日本語における文の述べ方と話し手の立場	165
今週の一句 最も難しい三つのことは、秘密を守ること、他人から	

受けた危害を忘れること、暇な時間を利用すること 166

第8課167

- 本文 綾を読む 168
- 言葉の使い方 174
- 表現と文型 176
- 練習 177
- 作文1 文章の要約 182
- 作文2 日本人の仲間意識 184
- 読解1 異文化摩擦の根っこ 186
- 読解2 欧米人が沈黙するとき 187
- コラム 日本語の婉曲表現 188
- 今週の一句 目玉は眉毛よりも上へは上がらない 189

第9課190

- 本文 大学生の読書 191
- 言葉の使い方 196
- 表現と文型 199
- 練習 201
- 作文1 報告書の作成手順と展開 205
- 作文2 大学生の読書についての調査 207
- 読解1 私の読書術(一) 210
- 読解2 私の読書術(二) 212
- コラム 日本人の読書量 214
- 今週の一句 楽しい人には草も花、いじけた人には花も草 214

第10課215

- 本文 演歌と日本文化 216
- 言葉の使い方 221

表現と文型	224
練習	226
作文1 小論文の手順と要点	231
作文2 小論文を書く	233
読解1 日本の音楽	236
読解2 NHKはなぜ、演歌が好きか	238
コラム 日本の歌	239
今週の一句 自分の飲んだ井戸には石を投げてはいけない	240

附录 241

附录1 模擬テスト1	241
附录2 模擬テスト2	255
附录3 単語索引	269
附录4 言葉の使い方索引	288
附录5 表現と文型索引	290

第1課

フルタイム化する人間関係 ——はやる携帯メールと若者文化

学習目標

読解

ある社会的現象の分析の仕方を理解する。

作文

- 1 分類と構成の表現の使用。
- 2 ある社会的現象の分析の作文を書く。

表現と文型

- 1 ものがある
- 2 やら
- 3 ～めく
- 4 ～まくる
- 5 ～もある



読みながら

1. 携帯電話の普及で、人間関係や人間同士のコミュニケーションにどんな変化がもたらされたか。
2. 携帯メールを使うとき、人間同士のコミュニケーションに関して、どんな点に留意すべきか。

本文

なかむら いさお
中村 功

小さな画面を凝視しながら、若者たちが盛んに携帯電話のボタンを押している。近ごろ、街でよく見かける風景だが、彼らのやっているのが、今はやりの携帯メールだ。われわれが昨年行った調査によれば、八割以上の学生が携帯メールを利用し、毎日五回以上、メールをやりとりする者が四割近くを占めた。その広まりや、利用の活発さには目を見張るものがある。

はたから見ると何やら不可解な若者の行動だが、全国の携帯電話利用者にアンケート調査をしたり、メールの実例を学生から集めたりしてみると、興味深いコミュニケーションの実態が見えてくる。

第一に、携帯メールの主な相手は、普段よく会う友人や、遠くに住む昔の友人である。その一方、メールだけでやりとりをする、いわゆる「メル友」は少ない。第二に、やりとりされる内容は、待ち合わせの約束とともに、その時々のお出来事や気持ちの伝達といった、おしゃべり的な内容が多い。携帯電話では用件連絡が主となるが、それとは対照的である。第三に、携帯メールには、絵文字、方言、擬音語、長音符号、幼児化表現などの、表現上の特徴が見られる。

例えば、「今日まじで寒いよねーハ | つつ学校の行き帰りがつらいさーっていうか明日統計学やん…もう数字見たくない×」。これは、現状報告とその時々のお感情表出を内容としているが最も典型的な携帯メールの例である。そのほか、身の回りのちょっとした話題

や、幸福の手紙めいた「チェーンメール」も多い。

25 その一方、「進路についていろいろ悩みまくっています。大学生になっとけばよかったと常日ごろ感じておりますっつ」などといった真剣な相談事もある。

30 こうした利用実態をみると、次のような影響が考えられる。第一に、携帯メールでは、よく会う間柄で、ちょっとした感情が常にやりとりされていることから、フルタイム化した緊密な人間関係の形成が考えられる。会っては話し、別れても携帯メールで常におしゃべりする「べたべた」とした関係である。

第二に、そうした間柄で、待ち合わせの道具としても利用されることから、携帯メールは、対面接触を活性化したり、人間関係を深化させたりするのではないだろうか。

35 第三に、携帯メールでは、感謝や励ましなど、面と向かって言いにくいことがいいやすくなる。これは、表情や声色が伝わらない「手掛かりの少なさ」が原因となっている。ニュアンスの伝わりにくさによるトラブルを避けるために、絵文字が多用され、一定の効果をあげている。しかし、受け手の反応が伝わりにくい、元気さや思いやりを取り繕いやすい、などの問題もある。利用者は対面コミュニケーションとの違いを認識し、メールだけに頼らないことが重要であろう。

40 第四に、携帯メールはかつての人間関係を維持する道具ともなっている。普段あまり会わない友人とやりとりする人が利用者の四割程度いるが、その多くは、進学や就職で離れ離れになった友人たちである。通信コストの安さもあり、こうした間柄で、日常のちょっとした出来事や、気持ちがやりとりされているのである。

45 「おはよう！食料の備蓄状態はどうですか？いつものなら送れるよ！」これはある下宿学生への母親からのメールだ。携帯メールの人間関係といっても、多くは学校の友人や親子など、従来の人間関

- 50 係を背景にしている。そしてその影響も基本となる人間関係の在り方に大きく左右されるのである。

出典：京都新聞 2001年2月2日から

● 単語 ①

- | | | |
|---------------------|--------|----------------------------------|
| 1. フルタイム ③ | [名] | 一定の時間帯の最初から最後まで。全時間。 |
| 2. 携帯メール(けいたいメール) ⑤ | [名] | 携帯電話でやり取りされるメッセージ。 |
| 3. 凝視(ぎょうし) ① | [名・他サ] | 目を凝らしてじっと見ること。 |
| 4. 広まり(ひろまり) ① | [名] | 広く行き渡ること、また、広く知られるようになること。 |
| 5. 活発(かつぱつ) ① | [形動] | 元気はつらつとした様子。活気があり勢いのよい様子。 |
| 6. 見張る(みはる) ① | [他五] | びっくりして目を大きく開いて見る。 |
| 7. 興味深い(きょうみぶかい) ⑤ | [形] | たいへん面白く心が引かれる様子。関心が持たれる様子。 |
| 8. コミュニケーション ④ | [名] | 言葉や身振りなどによって意思、感情、情報などを伝えること。 |
| 9. メル友(メルとも) ③ | [名] | ほとんど対面せず、携帯電話でメールだけをやり取りする関係の友達。 |
| 10. 出来事(できごと) ② | [名] | 社会で起こる事件、事柄。また、不意に起こる事柄。 |
| 11. 用件(ようけん) ③ | [名] | 重要な、または必要な事柄。 |
| 12. 絵文字(えもじ) ② | [名] | 記号や文字を組み合わせて作るシンボリックな絵。 |
| 13. まじ ① | [名・形動] | 本気で。本当に。口頭語。若者語。「まじめ」から。 |
| 14. 身の回り(みのまわり) ① | [名] | 日常生活に必要な衣類などの持ち |

		物、また、身の雑事。日常的な行為など。
15. チェーン ①	[名]	くさり。
16. 進路(しんろ) ①	[名]	これから進んで行く道、特に、人や組織などが将来進んで行く方向を言う。
17. 常日ごろ(つねひごろ) ①	[名・副]	日常いつも。ふだん。
18. 間柄(あいだがら) ①	[名]	親類、友人、師弟など、人と人との関係。
19. 活性化(かつせいか) ①	[名・他サ]	いきいきとさせること。物質などの働きや化学変化をより大きくすること。組織や集団の活動を活発に進めること。
20. 声色(こわいろ) ①	[名]	声の調子。こわね。
21. 手掛かり(てがかり) ②	[名]	調べたり解決したりするためのきっかけ。
22. ニュアンス ①	[名]	意味、色合い、声色などの微妙な感じや違い。
23. 受け手(うけて) ①	[名]	受ける側の人。
24. 取り繕う(とりつくろう) ⑤	[他五]	過失や体裁の悪いことを隠して、その場を済ます。
25. 頼る(たよる) ②	[他五]	当てにしてすがる。たのみにする。
26. 離れ離れ(はなればなれ) ④	[名・形動]	一緒にいた人・ものが互いに離れてしまうこと。散り散りになること。
27. 備蓄(びちく) ①	[名・他サ]	万一に備えて蓄えておくこと。
28. 下宿(げしゅく) ①	[名・自サ]	部屋代、食費などを払って、他人の家の部屋を借りて住むこと。また、その住居。
29. 親子(おやこ) ①	[名]	親と子。